

## 福祉実習コンピテンスの取り組みの成果と今後の課題 ー ソーシャルワーク実習及び精神保健福祉援助実習におけるセルフアセスメント およびコンピテンステスト結果との関連性分析 ー

水島正浩\*<sup>1</sup>・姜 壽男\*<sup>1</sup>・西村明子\*<sup>2</sup>・青木 正\*<sup>2</sup>  
谷口恵子\*<sup>3</sup>・馬場さやか\*<sup>4</sup>・藤島 薫\*<sup>1</sup>

\*1 東京福祉大学 社会福祉学部 (池袋キャンパス)  
〒170-8426 東京都豊島区東池袋4-23-1

\*2 東京福祉大学 保育児童学部 (池袋キャンパス)  
〒170-8426 東京都豊島区東池袋4-23-1

\*3 東京福祉大学 心理学部 (王子キャンパス)  
〒114-0014 東京都北区堀船2-1-11

\*4 東京福祉大学 福祉専門職支援室 (池袋キャンパス)  
〒170-0022 東京都豊島区東池袋2-14-2

(2020年11月11日受付、2021年2月25日受理)

抄録：本研究は、ソーシャルワーカー養成教育における福祉実習コンピテンスの実践例としてT大学で実施された福祉実習コンピテンス確認テスト(以下コンピテンステスト)及びセルフアセスメントシート(以下セルフアセスメント)が実習の前後において具体的にどのような点で学生に影響を及ぼしているのかについてその一旦を明らかにすることを目的とした。特にコンピテンステストやセルフアセスメントの結果における実習前後の差異、項目及び相互の関連性、ストレングス認識の変化等に焦点をあて分析を試みた。セルフアセスメントの分析では、特に基本姿勢や自己理解、社会スキル等の実習に臨む姿勢の向上が図られているという傾向が、そしてコンピテンステストの分析では学習スキルや生活習慣の向上等の実習前に必要な知識の習得の促進が図られているという傾向が示唆されており、セルフアセスメント及びコンピテンステスト実施における具体的関連性の一端が見出された。

(別刷請求先：水島正浩)

キーワード：コンピテンス、コンピテンステスト、セルフアセスメント、ストレングス

### 緒言

1970年代前半にマクレランド(McLelland, D.C.)らによって提唱されたコンピテンシーの概念を活用した能力評価の方法は、1990年代のアメリカにおいてモデル化が進むなど発展し(加藤, 2011)、わが国におけるソーシャルワーカー養成教育においても2000年以降、独自の評価項目作成や実施等に向けての動きが活発化していった(日本社会福祉士養成校協会, 2003, 2004)。

2005年に実施された実習コンピテンスやセルフアセスメントの量的分析・インタビュー調査によれば、それらの実施が、各自の実習に向けた準備状態や実習後の到達状態を把握し、それに向けた学習の焦点化のために役立つということが示唆されている(池田, 2005)。

その後も2009年から3年間の施行期を経て実習前評価システムを取り入れた北海道ブロック(日本社会福祉士養成校協会)での取り組みが行われるなど多くの大学等での取り組みが活発化してきている。阿部(2014)によれば、

それらの取り組みによって学生自身による客観視の機会の創出や教授側の教授方法・内容の見直し、学生間の意識の高まりなどにおける効果等が示唆されている。

このように活発な動きが見られる反面、全国的な導入には至っておらず、特に学生のどのような側面に影響を及ぼしているのかといった具体的な効用や教育上の効果の検証等に関しては多くの研究がなされているとは言い難い。

本研究では、それらの状況を踏まえ、福祉実習コンピテンスとして設定したコンピテンステストやセルフアセスメントが実習の前後において具体的にどのような点で学生に影響を及ぼしているのかについてその一旦を明らかにすることを目的としている。

### 研究対象と方法

#### 1. 研究対象

研究調査対象者は、東京都にある私立T大学の社会福祉学部(以下社会福祉士)に所属する社会福祉士受験資格課程(以下社会福祉士)

を受講する3年次生87名及び精神保健福祉士受験資格課程(以下精神保健福祉士)を受講する3年次生28名である。

分析の対象者は、2019(令和1)年度における実習実施者(上記学生の内実習中止者等を除く)である。内訳は、社会福祉士のソーシャルワーク基礎実習(ソーシャルワーク実習前※6月に行う10日間集中型の法定外の独自実習)実施者84名、ソーシャルワーク実習(10月～1月にかけて週2日間30日間行う通年型の法定実習)実施者70名及び精神保健福祉士のソーシャルワーク基礎実習(精神保健福祉援助実習前※上掲)実施者26名、精神保健福祉援助実習第一段(10月～12月にかけて週2日間24日間行う通年型の法定実習)実施者22名、精神保健福祉援助実習第二段階(2月～3月にかけて12日間行う集中型の法定実習)実施者15名を分析対象とした。

## 2. 研究方法

### 2.1 調査内容

授業で実施したセルフアセスメントおよびコンピテンステストの結果について、実施前と実施後の数値の変化から関連性について分析した。

T大学におけるセルフアセスメントは、「実習に臨むための基本姿勢と自己理解」について、自己評価を行うための取り組みとして、全20項目の質問項目を用いて各実習前後に実施するものである。各自の状態において4つの側面「生活習慣・身だしなみ」「基本的学習スキル」「対人関係」「社会スキル」に関する各5項目の質問項目については、5件法(5:十分にできている、4:ほとんどできている、3:だいたいできている、2:あまりできていない、1:全くできていない)を用い、実習前後の自身のストレングスに関する意識(「持っているストレングス」「得たストレングス」)については、記述式を用いた。

T大学におけるコンピテンステストは、「実習に臨むための基礎的な学習項目」について、事前学習を強化し、必要な知識の定着を図るための取り組みとして、全100問の質問項目を用いてソーシャルワーク基礎実習前に行う「コンピテンステストⅠ」及び全50問の実践に関する質問項目と実践事例に関する問題(50点分)を用いてソーシャルワーク実習及び精神保健福祉援助実習(第一段階・第二段階)前に行う「コンピテンステストⅡ」として実施するものである。各テストの質問項目について、合計100点満点にて実施した(60点以下の学生は不合格として、合格まで再試験を行っている)。

「セルフアセスメントシート」及び「コンピテンステスト」の各項目は、先行する社会福祉士養成校協会北海道ブロックによる「実習コンピテンス・アセスメント(2015年度版)」等を参考とし、実習指導を行う研究者7名によるワーキン

ググループによって実習指導カリキュラム及び実習形態等を踏まえた検討を行い、作成した。

### 2.2 分析方法

セルフアセスメントについては、「実習に臨むための基本姿勢と自己理解」の質問項目全体の各実習前後の平均値の推移、コンピテンステストについては、コンピテンステストⅠ及びコンピテンステストⅡそれぞれの合計得点(再試験者は再試験後の合格点)における平均値の推移について集計を行った。

セルフアセスメントについては、4つの側面「生活習慣・身だしなみ」「基本的学習スキル」「対人関係」「社会スキル」における各実習前後における平均値の推移について比較(対応あるサンプルのT検定)し、その特徴について分析を行った。そして、コンピテンステストⅠⅡの点数とセルフアセスメントの4つの項目について、相関分析を行い、特徴との関連性について分析を行った。分析には、SPSS第25版を用いた。

さらに、セルフアセスメントにおける実習前後の自身のストレングスに関する記述(「持っているストレングス」「得たストレングス」)については、用いられた言語の特徴及び変化について、テキストマイニングによる分析を行った。分析には、ユーザーローカル テキストマイニングツール(<https://textmining.userlocal.jp/>)を用いた。

### 2.3 倫理的配慮

本研究・調査を行うにあたり、対象者に対し、知り得た個人情報について個人が特定しないよう匿名化することや結果を研究目的以外には使用しないこと等を文書にして説明し、不利益を被ることの無いよう十分に配慮した。実施にあたっては、東京福祉大学・大学院倫理規定に基づき、倫理審査を受けて承認を得た(承認番号 東福大倫審2019-09号)。

## 結果

### 1. 各実習前後のセルフアセスメントの結果分析(合計)

セルフアセスメントの合計の平均値の推移における差異について分析を行った(表1)。

(社会福祉士)ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習におけるセルフアセスメントの合計値においては、ソーシャルワーク基礎実習前の平均値76.47点から実習後の平均値82.60点、ソーシャルワーク実習前の平均値77.13点から実習後の平均値82.57点となっており、いずれも上昇している。対応ある平均の差の検定においても1%水準で有意差が見られた( $t=-8.677, p<.01$   $t=-4.761, p<.01$ )。

表1. 各段階の実習前後のセルフアセスメント合計の平均値推移

(社会福祉士) ソーシャルワーク基礎実習・ソーシャルワーク実習前後のセルフアセスメント合計の平均値推移

	平均値	度数	標準偏差	平均値の差	t値	有意確率(両側)
セルフアセスメント基礎実習前	76.47	83	13.559	-6.133	-8.677	.000
セルフアセスメント基礎実習後	82.60	83	11.966			
セルフアセスメントSW実習前	77.13	69	12.995	-5.435	-4.761	.000
セルフアセスメントSW実習後	82.57	69	14.951			

(精神保健福祉士) ソーシャルワーク基礎実習・精神保健福祉援助実習第一階段第二段階実習前後のセルフアセスメント合計の平均値推移

	平均値	度数	標準偏差	平均値の差	t値	有意確率(両側)
セルフアセスメント基礎実習前	72.58	26	10.504	-5.231	-4.459	.000
セルフアセスメント基礎実習後	77.81	26	11.893			
セルフアセスメント第一階段実習前	72.77	22	13.427	-4.909	-3.148	.005
セルフアセスメント第一階段実習後	77.68	22	12.985			
セルフアセスメント第二段階実習前	72.87	15	16.309	-3.867	-2.360	.033
セルフアセスメント第二段階実習後	76.73	15	13.307			

(精神保健福祉士) ソーシャルワーク基礎実習及び精神保健福祉援助実習第一階段、精神保健福祉援助実習第二段階におけるセルフアセスメントの合計値においては、ソーシャルワーク基礎実習前の平均値72.58点から実習後の平均値77.81点、第一階段実習前の平均値72.77点から実習後の平均値77.68点、第二段階実習前の平均値72.87点から実習後の平均値76.73点となっており、いずれも上昇している。ソーシャルワーク基礎実習前後及び精神保健福祉援助実習第一階段前後においては、対応ある平均の差の検定においても1%水準で有意差が見られた( $t=-4.459$ ,  $p<.01$   $t=-3.148$ ,  $p<.01$ )。

## 2. 各実習前後のセルフアセスメントの結果分析(項目毎)

セルフアセスメントの項目毎の平均値の推移における差異について分析を行った(表2)。

(社会福祉士) ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習におけるセルフアセスメントの項目毎の平均値においては、「生活習慣・身だしなみ」「基本的学習スキル」「対人関係」「社会スキル」の全項目において、ソーシャルワーク基礎実習前の平均値から実習後の平均値、ソーシャルワーク実習前の平均値から実習後の平均値はいずれも上昇している。対応ある平均の差の検定においても、全項目において1%水準で有意差が見られた。

(精神保健福祉士) ソーシャルワーク基礎実習及び精神保健福祉援助実習第一階段、精神保健福祉援助実習第二段階におけるセルフアセスメントの項目毎の平均値においては、「生活習慣・身だしなみ」「基本的学習スキル」「対人関係」「社会スキル」の全項目において、「生活習慣・身だしなみ」「基本的学習スキル」「対人関係」「社会スキル」の全項目において、ソーシャルワーク基礎実習前の平均値から実習

後の平均値、精神保健福祉援助実習第一階段前の平均値から実習後の平均値、精神保健福祉援助実習第一階段前の平均値から実習後の平均値はいずれも上昇している。対応ある平均の差の検定においては、基礎実習前後の「対人関係」及び第一階段実習前後の「対人関係」「社会スキル」の項目のみにおいて1%水準で有意差が見られた。

## 3. コンピテンステスト結果及びセルフアセスメント結果との相関分析

コンピテンステストの結果(合計平均値)とセルフアセスメントの項目との相関関係について分析を行った(表3・表4)。

### 3.1 コンピテンステスト結果

コンピテンステストの結果については、社会福祉士の学生のコンピテンステストⅠの平均点が89.471点、コンピテンステストⅡの平均点が82.948点、精神保健福祉士の学生のコンピテンステストⅠの平均点が79.463点、コンピテンステストⅡの平均点が74.870点となっている。

### 3.2 コンピテンステストとセルフアセスメントとの相関

(社会福祉士) コンピテンステストⅠⅡと基礎実習・SW実習後のセルフアセスメント項目の相関では、テストⅠⅡのいずれにおいても②基礎実習後の「基本的学習スキル」との間で、やや強い正の相関が見られた。

(精神保健福祉士) コンピテンステストⅠⅡと基礎実習・精神保健福祉援助実習第一階段後のセルフアセスメント項目の相関では、テストⅠⅡのいずれにおいても第一階段実習後の「生活習慣・身だしなみ」との間で、やや強い正の相関が見られた。

表2. 各段階の実習前後のセルフアセスメント項目毎の平均値推移

(社会福祉士) ソーシャルワーク基礎実習・ソーシャルワーク実習前後のセルフアセスメント項目毎の平均値推移

	平均値	度数	標準偏差	平均値の差	t値	有意確率(両側)
基礎実習前「生活習慣・身だしなみ」	20.70	83	3.701	-1.735	-7.760	.000
基礎実習後「生活習慣・身だしなみ」	22.43	83	2.906			
基礎実習前「基本的学習スキル」	18.51	83	3.974	-1.012	-5.091	.000
基礎実習後「基本的学習スキル」	19.52	83	3.647			
基礎実習前「対人関係」	18.30	83	3.922	-1.783	-7.448	.000
基礎実習後「対人関係」	20.08	83	3.610			
基礎実習前「社会スキル」	19.10	83	3.805	-1.506	-6.238	.000
基礎実習後「社会スキル」	20.60	83	3.276			
SW実習前「生活習慣・身だしなみ」	20.78	69	3.601	-1.101	-4.339	.000
SW実習後「生活習慣・身だしなみ」	21.88	69	3.141			
SW実習前「基本的学習スキル」	18.26	69	3.988	-1.449	-5.313	.000
SW実習後「基本的学習スキル」	19.71	69	3.975			
SW実習前「対人関係」	18.70	69	4.027	-1.855	-6.446	.000
SW実習後「対人関係」	20.55	69	3.748			
SW実習前「社会スキル」	19.30	69	3.495	-1.768	-5.979	.000
SW実習後「社会スキル」	21.07	69	3.639			

(精神保健福祉士) ソーシャルワーク基礎実習・精神保健福祉援助実習第一段階第二段階前後のセルフアセスメント項目毎の平均値推移

	平均値	度数	標準偏差	平均値の差	t値	有意確率(両側)
基礎実習前「生活習慣・身だしなみ」	19.85	27	3.134	-1.296	-2.789	.010
基礎実習後「生活習慣・身だしなみ」	21.15	27	3.219			
基礎実習前「基本的学習スキル」	17.93	27	3.137	-.852	-2.442	.022
基礎実習後「基本的学習スキル」	18.78	27	3.490			
基礎実習前「対人関係」	16.73	26	3.573	-1.808	-5.088	.000
基礎実習後「対人関係」	18.54	26	3.723			
基礎実習前「社会スキル」	18.31	26	3.159	-1.077	-3.035	.006
基礎実習後「社会スキル」	19.38	26	3.086			
第一段階実習前「生活習慣・身だしなみ」	20.36	22	4.065	-.682	-1.115	.277
第一段階実習後「生活習慣・身だしなみ」	21.05	22	3.760			
第一段階実習前「基本的学習スキル」	18.00	22	3.842	-.500	-1.308	.205
第一段階実習後「基本的学習スキル」	18.50	22	4.033			
第一段階実習前「対人関係」	16.68	22	3.908	-2.227	-5.291	.000
第一段階実習後「対人関係」	18.91	22	3.728			
第一段階実習前「社会スキル」	17.86	22	3.590	-1.409	-3.868	.001
第一段階実習後「社会スキル」	19.27	22	3.341			
第二段階実習前「生活習慣・身だしなみ」	20.00	15	4.359	-1.267	-2.942	.011
第二段階実習後「生活習慣・身だしなみ」	21.27	15	3.595			
第二段階実習前「基本的学習スキル」	17.20	15	4.601	-.800	-1.277	.222
第二段階実習後「基本的学習スキル」	18.00	15	3.703			
第二段階実習前「対人関係」	17.47	15	4.580	-1.067	-2.256	.041
第二段階実習後「対人関係」	18.53	15	4.121			
第二段階実習前「社会スキル」	18.20	15	3.932	-.733	-1.408	.181
第二段階実習後「社会スキル」	18.93	15	3.262			

表3. コンピテンステスト I II の合計平均値

(社会福祉士) コンピテンステスト I II 合計平均値

	平均値	度数	標準偏差
コンピテンステスト I	89.471	86	13.4506
コンピテンステスト II	82.948	86	11.7641

(精神保健福祉士) コンピテンステスト I II 合計平均値

	平均値	度数	標準偏差
コンピテンステスト I	79.463	27	10.2890
コンピテンステスト II	74.870	27	10.3288

表4. コンピテンステスト I II と各段階実習後のセルフアセスメント項目の相関

(社会福祉士) コンピテンステスト I II と基礎実習・SW 実習後のセルフアセスメント項目の相関

		I	II	①	②	③	④	(1)	(2)	(3)	(4)
I コンピテンステスト I	相関係数	1	.564**	.198	.219*	.149	.094	.200	.133	.123	.215
	有意確率		.000	.073	.047	.180	.397	.099	.276	.316	.076
	度数		86	83	83	83	83	69	69	69	69
II コンピテンステスト II	相関係数		1	.193	.274*	.156	.170	.224	.132	.164	.196
	有意確率			.080	.012	.159	.125	.065	.281	.178	.106
	度数			83	83	83	83	69	69	69	69
①基礎実習後 「生活習慣・身だしなみ」	相関係数			1	.702**	.681**	.718**	.676**	.514**	.428**	.613**
	有意確率				.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	度数				83	83	83	67	67	67	67
②基礎実習後 「基本的学習スキル」	相関係数				1	.617**	.748**	.554**	.610**	.467**	.602**
	有意確率					.000	.000	.000	.000	.000	.000
	度数					83	83	67	67	67	67
③基礎実習後 「対人関係」	相関係数					1	.806**	.543**	.540**	.673**	.643**
	有意確率						.000	.000	.000	.000	.000
	度数						83	67	67	67	67
④基礎実習後 「社会スキル」	相関係数						1	.618**	.600**	.640**	.731**
	有意確率							.000	.000	.000	.000
	度数							67	67	67	67
(1) SW 実習後 「生活習慣・身だしなみ」	相関係数							1	.748**	.574**	.755**
	有意確率								.000	.000	.000
	度数								69	69	69
(2) SW 実習後 「基本的学習スキル」	相関係数								1	.642**	.776**
	有意確率									.000	.000
	度数									69	69
(3) SW 実習後 「対人関係」	相関係数									1	.801**
	有意確率										.000
	度数										69
(4) SW 実習後 「社会スキル」	相関係数										1
	有意確率										
	度数										

\*\* . 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) \* . 相関係数は 5% 水準で有意 (両側)

(精神保健福祉士) コンピテンステスト I II と基礎実習・精神保健福祉援助実習第一段階後のセルフアセスメント項目の相関

		I	II	①	②	③	④	(1)	(2)	(3)	(4)	(4)
I コンピテンステスト I	相関係数	1	.504**	.336	.247	.091	.088	.438*	.130	.081	.019	
	有意確率		.007	.086	.215	.658	.671	.042	.564	.720	.932	
	度数		27	27	27	26	26	22	22	22	22	
II コンピテンステスト II	相関係数		1	.269	.055	.208	.178	.443*	.171	.337	.351	
	有意確率			.175	.785	.308	.383	.039	.447	.125	.109	
	度数			27	27	26	26	22	22	22	22	
①基礎実習後 「生活習慣・身だしなみ」	相関係数			1	.749**	.627**	.517**	.615**	.576**	.620**	.401	
	有意確率				.000	.001	.007	.002	.005	.002	.064	
	度数				27	26	26	22	22	22	22	
②基礎実習後 「基本的学習スキル」	相関係数				1	.719**	.595**	.537*	.703**	.613**	.492*	
	有意確率					.000	.001	.010	.000	.002	.020	
	度数					26	26	22	22	22	22	
③基礎実習後 「対人関係」	相関係数					1	.838**	.586**	.512*	.856**	.682**	
	有意確率						.000	.005	.018	.000	.001	
	度数						26	21	21	21	21	
④基礎実習後 「社会スキル」	相関係数						1	.366	.283	.637**	.710**	
	有意確率							.103	.214	.002	.000	
	度数							21	21	21	21	
(1) 第一段階実習後 「生活習慣・身だしなみ」	相関係数							1	.670**	.697**	.590**	
	有意確率								.001	.000	.004	
	度数								22	22	22	
(2) 第一段階実習後 「基本的学習スキル」	相関係数								1	.703**	.672**	
	有意確率									.000	.001	
	度数									22	22	
(3) 第一段階実習後 「対人関係」	相関係数									1	.790**	
	有意確率										.000	
	度数										22	
(4) 第一段階実習後 「社会スキル」	相関係数										1	
	有意確率											
	度数											

\*\* . 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) \* . 相関係数は 5% 水準で有意 (両側)

4. セルフアセスメントにおける実習前後の自身のストレンクスに関する記述の分析結果

各実習前後のストレンクスの認識に関する記述「持っているストレンクス」「得たストレンクス」において用いられた言語の特徴及び変化について、テキストマイニングによる分析を行った(表5)。

4.1 (社会福祉士) SW基礎実習前後の記述の特徴及び変化

SW基礎実習前後のストレンクスの記述に出現する単語(名詞)を、それぞれどちらの記述に偏って出現しているかグループ分けし、その出現比率を比較して特徴を分析した。

実習前には「素直」「謙虚」といった単語の出現比率が高いのに比べ、実習後には「主張」「実行力」「意見」といった単語の出現比率が高くなっている。特徴として、実行する力等を示す表現比率が高まっていることが推察できる。

表5. 各段階実習前後の単語(名詞)の出現比率

(社会福祉士)

SW基礎実習前後の単語(名詞)の出現比率			SW実習前後の単語(名詞)の出現比率		
SW基礎実習前 (持っているストレンクス)	頻出単語 (名詞)	SW基礎実習後 (得たストレンクス)	SW実習前 (持っているストレンクス)	頻出単語 (名詞)	SW実習後 (得たストレンクス)
53	元気	47	21	チャレンジ精神	79
53	慎重	47	84	元気	16
39	前向き	61	100	素直	0
75	素直	25	100	親切	0
62	親切	38	53	慎重	47
14	主張	86	62	前向き	38
14	実行力	86	62	礼儀	38
14	意見	86	15	実行力	85
57	礼儀	43	66	責任感	34
23	チャレンジ精神	77	0	リラックス	100
38	冷静	62			
84	謙虚	16			
53	責任感	47			

(精神保健福祉士)

SW基礎実習前後の単語(名詞)の出現比率			第一段階実習前後の単語(名詞)の出現比率			第二段階実習前後の単語(名詞)の出現比率		
実習前 (持っているストレンクス)	頻出単語 (名詞)	実習後 (得たストレンクス)	実習前 (持っているストレンクス)	頻出単語 (名詞)	実習後 (得たストレンクス)	実習前 (持っているストレンクス)	頻出単語 (名詞)	実習後 (得たストレンクス)
0	リラックス	100	0	実行力	100	0	実行力	100
100	責任感	0	44	素直	56	0	協力	100
100	元気	0	80	慎重	20	0	行動	100
0	持続	100	100	チャレンジ精神	0	66	素直	34
61	誠実	39				25	前向き	75
34	素直	66	100	親切	0	25	慎重	75
54	前向き	46	0	謙虚	100	25	熱中	75
54	慎重	46	70	誠実	30	100	謙虚	0
76	謙虚	24	70	責任感	30	100	責任感	0
21	チャレンジ精神	79	100	愛情	0	0	具体	100
			61	リラックス	39	0	冷静	100
44	礼儀	56	100	親切	0	0	完璧主義	100
100	協力	0	0	コミュニケーション	100	0	愛情	100
100	真面目	0				0	方法	100
						0	真面目	100

#### 4.2 (社会福祉士) SW実習前後の記述の特徴及び変化

SW実習前後のストレングスの記述に出現する単語(名詞)を、それぞれどちらの記述に偏って出現しているかグループ分けし、その出現比率を比較して特徴を分析した。

実習前には「素直」「親切」「のり」といった単語の出現比率が高いのに比べ、実習後には「チャレンジ精神」「実行力」「リラックス」といった単語の出現比率が高くなっている。特徴として、取り組む姿勢の向上を示す表現比率が高まっていることが推察できる。

#### 4.3 (精神保健福祉士) SW基礎実習前後の記述の特徴及び変化

SW基礎実習前後のストレングスの記述に出現する単語(名詞)を、それぞれどちらの記述に偏って出現しているかグループ分けし、その出現比率を比較して特徴を分析した。

実習前には「責任感」「元気」「協力」「真面目」といった単語の出現比率が高いのに比べ、実習後には「リラックス」「持続」「チャレンジ精神」といった単語の出現比率が高くなっている。特徴として、取り組む姿勢の向上を示す表現比率が高まっていることが推察できる。

#### 4.4 (精神保健福祉士) 第一段階実習前後の記述の特徴及び変化

第一段階実習前後のストレングスの記述に出現する単語(名詞)を、それぞれどちらの記述に偏って出現しているかグループ分けし、その出現比率を比較して特徴を分析した。

実習前には「チャレンジ精神」「親切」「愛情」といった単語の出現比率が高いのに比べ、実習後には「実行力」「謙虚」「コミュニケーション」といった単語の出現比率が高くなっている。特徴として、実践力の向上を示す表現比率が高まっていることが推察できる。

#### 4.5 (精神保健福祉士) 第二段階実習前後の記述の特徴及び変化

第二段階実習前後のストレングスの記述に出現する単語(名詞)を、それぞれどちらの記述に偏って出現しているかグループ分けし、その出現比率を比較して特徴を分析した。

実習前には「謙虚」「責任感」といった単語の出現比率が高いのに比べ、実習後には「実行力」「協力」「行動」「具体」「冷静」「完璧主義」「愛情」「方法」「真面目」といった単語の出現比率が高くなっている。特徴として、これまでの実習で得てきた実践力等について、より具体的に実践できる力の完成度を高めていこうとする意識や方法等を示す表現が高まっていることが推察できる。

## 考察

### 1. 社会福祉士

ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習においては、セルフアセスメントの合計の平均値及び項目毎の平均値ともに上昇しており、実習を経験していく上で「実習に臨むための基本姿勢と自己理解」について、着実にその全般的な面において向上しているということが推察できる。

また、コンピテンステストⅠⅡの平均値と実習後のセルフアセスメントにおける「基本学習スキル」との間に相関が見られることから、テストの実施が実習にかかる学習等の向上を促しているということを推察することができる。

さらに、セルフアセスメントにおける実習前後の自身のストレングスに関する記述の分析からは、SW基礎実習の実施後の段階では特徴として「実行する力」の向上を示す表現が高まり、その後のSW実習後において「取り組む姿勢」の向上を示す表現が高まっていることから、実習の実施が段階的にそれらの向上を喚起しているということが推察できる。

### 2. 精神保健福祉士

ソーシャルワーク基礎実習及び精神保健福祉援助実習第一段階、精神保健福祉援助実習第二段階においては、セルフアセスメントの合計値の平均値及び項目毎の平均値における「対人関係」「社会スキル」における上昇が顕著であり、実習の経験が特にそれらの面での向上を促しているということが推察できる。また、コンピテンステストⅠⅡの平均値と実習後のセルフアセスメントにおける「生活習慣・身だしなみ」との間に相関が見られることから、テストの実施が実習にかかる生活習慣等の向上を促しているということを推察することができる。

さらに、セルフアセスメントにおける実習前後の自身のストレングスに関する記述の分析からは、SW基礎実習の実施後の段階では特徴として「取り組む姿勢」の向上を示す表現が高まり、その後の第一段階実習の実習後において「実践的な力」の向上を示す表現、そして第二段階の実習後においてはそれらの「実践的な力」をより具体的に実践できる力の完成度を高めていこうとする意識や方法等を示す表現が高まっていることから、実習の実施が段階的にそれらの向上を喚起し、定着させていこうとする意識の萌芽がみられているということが推察できる。

## 結論

本研究では、福祉実習コンピテンスとしてのコンピテンステストやセルフアセスメントが実習の前後においてどのように学生に影響を及ぼしているのかに焦点をあてて分析を試みてきた。セルフアセスメントの分析においては、特に基本姿勢や自己理解、社会スキルといった実習に臨む姿勢の向上が図られているということが、そしてコンピテンステストの分析においては、学習スキルや生活習慣の向上といった実習前に必要な知識の習得の促進が図られているという傾向の一端が垣間見られた。従って、こうした点から研究の目的としていた、ソーシャルワーク実習及び精神保健福祉援助実習におけるセルフアセスメントおよびコンピテンステスト結果との関連性の一端を見出すことはできたと考えることができる。ただこの点に関する具体的なスキルや知識等の内容については十分に明らかにできてはいない。今後実施予定の同対象学生に対する調査(質問紙調査「実習コンピテンスに関するアンケート調査」及びインタビュー調査「福祉実習コンピテンスに関するフォーカス・グループ・インタビュー」)において、よりその実態や考察を深めていくこととしたい。

## 文献

- 阿部好恵(2014): 社会福祉士教育における実習前評価システムの取り組み, 帯広大谷短期大学紀要 **51**, 27-34.
- 北海道ブロック実習評価システム検討小委員会(2015): 実習コンピテンス・アセスメント(2015年度版).
- 池田雅子(2005): 社会福祉実習教育における学生の自己コンピテンス・アセスメントの活用について. 北星論集(社) **42**, 49-56.
- 加藤恭子(2011): 日米におけるコンピテンシー概念の生成と混乱. 産業経営プロジェクト報告書 **34-2**, 1-23.
- 社団法人日本社会福祉士養成校協会(2003): 平成14年度社会福祉士専門職教育における現場実習教育に関する研究報告書.
- 社団法人日本社会福祉士養成校協会(2004): 平成15年度社会福祉士専門職教育における現場実習教育に関する研究報告書.

## Results and Issues of a Program to Assess Students' Competency for Social Work Field Placement: Analysis of Relevance between Results of Self-Assessment Test and Competency Test for Field Placement of Social Workers and Psychiatric Social Workers

Masahiro MIZUSHIMA<sup>\*1</sup>, Soonam KANG<sup>\*1</sup>, Akiko NISHIMURA<sup>\*2</sup>, Tadashi AOKI<sup>\*2</sup>,  
Keiko TANIGUCHI<sup>\*3</sup>, Sayaka BABA<sup>\*4</sup> and Kaoru FUJISHIMA<sup>\*1</sup>

\*1 School of Social Welfare, Tokyo University and Graduate School of Social Welfare (Ikebukuro Campus)  
4-23-1 Higashiikebukuro, Toshima-ku, Tokyo 170-8426, Japan

\*2 School of Childcare and Early Childhood Education, Tokyo University and  
Graduate School of Social Welfare (Ikebukuro Campus)  
4-23-1 Higashiikebukuro, Toshima-ku, Tokyo 170-8426, Japan

\*3 School of Psychology, Tokyo University and Graduate School of Social Welfare (Oji Campus)  
2-1-11 Horifune, Kita-ku, Tokyo 114-0014, Japan

\*4 Professional Support Office, Tokyo University and Graduate School of Social Welfare (Ikebukuro Campus)  
2-14-2 Higashiikebukuro, Toshima-ku, Tokyo 170-0022, Japan

**Abstract :** The purpose of this study is to clarify the effects for the students by completing competency tests and self-assessment sheets. Especially in this study, we analyzed the difference of scores, the relationship among testing items, and the changes of strength recognition between before and after their field placement learning. In the analysis of self-assessment sheets, we found out that there is a tendency to improve the attitude toward practical training such as basic manner, self-awareness, and social skills. In the analysis of competency test, there is a tendency to promote the acquisition of necessary knowledge before practical training such as learning skills and lifestyle. In conclusion, present study has demonstrated that there is a part of the specific relevance in conducting self-assessment sheet and competency test. (Reprint request should be sent to Masahiro Mizushima)

**Key words :** Competency, Competency tests, Self-assessment, Strength

